# 新年のご挨

同窓会会長 西村 貞一(45回)

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれ ましては、きっと幸せな新年を迎えられたこととお慶び 申し上げます。

さて、日本経済はアベノミクス三本の矢で、昨年来よ うやく元気が出てきたように思えます。一本目の矢であ る金融緩和は円安、株高をもたらし、日本経済が息を吹 き直す大きな原動力となりました。二本目の矢は財政出 動であります。平成24年度補正予算、平成25年予算は 昨年の6月に成立しましたが、公共投資は急に予算がつ いても人手不足等があり、また補正予算の補助金事業も 募集から始まって、審査、発注、支払いが完了してから 補助金が国からもらえますが、その期間は2年で、全て が使い終わるにはまだまだ時間がかかるのが実情です。 二本の矢はまだ空中で的に向かって飛んでいる状況であ ると思います。第三の矢の成長戦略は目標が定まり、あ る程度予算もつきますが、本来は我々、民間がその目標 に向かって各社各人のできる事をやっていく、即ち我々 が踊らねばならないと考えていますので、これからの 我々の頑張り次第だと考えています。

さて同窓会の活動ですが、昨年4月7日開催予定の春 のゴルフ会は残念ながら大雨の予想が出ましたので、中 止となりました。

6月29日には初めての会員交流会を開催することがで きました。国土交通省都市局長(当時の肩書、現在は内 閣府地域活性化推進室長) 川本正一郎氏 (54回卒) により 「これからの都市行政、そして関西の将来像を語る」と いう題で講演いただきました。

8月31日には同窓会総会が228名参加のもと、産経新 聞編集長の乾正人氏(62回卒)を講師に迎え「関西人は なぜ政治が嫌いか? | という講演を拝聴した後、辰馬本 家酒造株式会社様とサントリーホールディングス株式会 社様より、アルコール類を含めて飲み物の援助をいただ き、楽しく懇親会を開催できました。

10月27日には秋のゴルフ会を開催、27名の参加があ り、信谷宗平君(56回生)が優勝されました。その後の 懇親会で大西久光先輩(36回生)よ りゴルフについての話を聞き、何と なく上手になった気になりました。

甲陽ファンドの現状としては4月 から10月まで85名、1,666,000円の 募金をいただきました。収入総額と しては57,767,184円になりました。 (利息収入を含む)また、平成25年度 は9名に奨学金の給付を行いました。

昨年12月の定例理事会では、甲陽 学院創立100周年でありまた我々同窓 会95周年を迎える2017年を目標に、 長年懸案になっていました名簿の発 行をする事を決めました。内容につ いては個人情報の問題もありますの で、今後会員名簿委員会に於いて十 分討議をし、万全を期したいと思い ます。一方、名簿作成には多大な労 力が必要ですので、今後皆さまの絶 大なご協力をよろしくお願いいたし まして、年始の挨拶といたします。



発 行 所 〒 662-0096 西宮市角石町 3-138 甲陽学院同窓会 発行人 西村貞 印刷所 株式会社小西印刷所 西宮市今津西浜町2番60号 TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用 TEL 0798-71-4888 (月·水·木·金 10:00~16:00) FAX 0798-71-4890 E-mail:

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp 同窓会ホームページ http://www.koyogakuinoba.jp

# 予告

# 今年の会員総会は8月30日です!

一テーマは宝塚歌劇100周年

8月30日(土) 13時~16時30分 於: ノボテル甲子園

☆今回の主役となるホームカミング学年は、45回生(卒 業50年)、60回生(卒業35年)、70回生(卒業25年)です。 記念品を用意いたしますからホームカミング学年の方 はふるってご参加ください!

☆昨年につづき総合司会は、テレビでもご活躍中の女性 アナウンサー高橋知裕さんです。

☆会費は一般会員6500円(予約割引6000円)です。

☆現在会員総会運営委員会にて鋭意準備企画中。詳細は 次号「甲陽だより」(7月下旬発行予定)にて発表します。



AM11:00~PM10:00

明治時代の酒蔵を

ック&カジュアルな和空間に

ミュージアムショップ

AM10:00~PM7:00

蔵元ならでは お酒にまつわるアイテムが大充実。

0798-35-0286

西宮市鞍掛町(礼場筋・臨港線交差点) ■定休日/火曜日

酒ミュージアム

白鹿記念酒造博物館

日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承

0798-33-0008

# 会 務 報 告

平成25年12月2日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

# 会報「甲陽だより」

第88号を平成25年7月25日付で発行。

紙面は、会員総会の告知・PR、会務報告、退職された松井先生のご挨拶、創立記念音楽会、高校修学旅行報告、高校バレーボール部・中学陸上部の活躍、リレーエッセイ「甲陽学院と私」、会員だより、第一回会員交流会報告などでした。

次号第89号の原稿は1月10日締切、3月頃発行予定と のことでした。

## 2 夏の会員総会

平成25年8月31日(土)の午後1時から午後4時半まで ノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙 行しました。

第1部は1階「鳴尾の間」にて式典と講演会。講師は乾正人さん(62回・産経新聞編集長)で演題は「関西人はなぜ政治が嫌いか?」でした。その講演は「関西人は政治を軽視してきた。関西で総理大臣になった人が一人もいないことに表れている。そこには根深い問題がある。豊臣が滅んだあと大阪は武士の町ではなく、関西は政治権力を意識せずに繁栄してきた。政治の東京一極集中が進行している。教育の問題もある。甲陽の卒業生80%が理科系と聞いた。文科系と理科系は半々が望ましい。母校からも優秀な学生が政治家になってほしい」というような内容でした。

第2部は、会場を2階「甲陽の間」に移して懇親会。 44回の喜多毅さん主宰のバンド「シルキー・コットンズ」 によるカントリーウエスタンの演奏を聴きながらのパー ティーとなりました。

当日の参加者は約230名でした。とくにホームカミング学年の44回生が多数参加してくださいました。

## 3 甲陽ファンド奨学金

本格的にファンド委員会が発足してから9年目、在校

## 終身会費納付額設定表(平成26年3月31日まで)

940~880	30,000円	74回	37,000円	60回	23,000円
87回	50,000円	73回	36,000円	59回	22,000円
86回	49,000円	72回	35,000円	58回	21,000円
85回	48,000円	71回	34,000円	57回	20,000円
84回	47,000円	70回	33,000円	56回	19,000円
83回	46,000円	69回	32,000円	55回	18,000円
82回	45,000円	68回	31,000円	54回	17,000円
81回	44,000円	67回	30,000円	53回	16,000円
80回	43,000円	66回	29,000円	52回	15,000円
79回	42,000円	65回	28,000円	51回	14,000円
78回	41,000円	64回	27,000円	50回	13,000円
77回	40,000円	63回	26,000円	49回	12,000円
76回	39,000円	62回	25,000円	48回	11,000円
75回	38,000円	61回	24,000円	47回~	10,000円

生への支給を始めてから8年目を迎えます。

募金活動は平成17年度から開始し、皆様のご協力によりこれまで8年半で約5777万円の醵金が集まりました。もっとも平成24年度は約337万円、平成25年度前期は約167万円となっており、やや募金活動が下火になってきていることが懸念されます。

在校生への給付実績は、平成18年度から平成25年度まで延べ61名に、年間20万円を支給してきました。

現在のファンド残高は平成25年10月末で約4555万円 となっています。

# 4 第一回会員交流会

同窓会活動の活性化のため夏の会員総会以外にも会員相互の交流と親睦を図るようなイベントを企画してはどうかとの意図で、第一回の会員交流会の講演会が平成25年6月29日に大阪堂島の中央電気倶楽部において行われました。講師は国土交通省都市局長の川本正一郎氏(54回)で演題は「これからの都市行政、そして関西の将来像を語る」でした。詳細は「甲陽だより」第88号を参照ください。

## 5 同窓会会員名簿の発行について

会員名簿の編集・発行について、常務理事会から次の ような提案がありました。

「同窓会による母校創立百周年(2017年)記念事業の一環として会員名簿を発行する。その理由は、多くの同窓生からの要望があること、名簿発行は同窓会会則に定められた事業であること。発行に際しては個人情報保護法を遵守する。会員名簿編集体制は、会員名簿委員長のもとに会員名簿編集部会と会員名簿広告部会をおく。編集作業には外部業者の利用を検討する。」というような提案です。

この提案に対して出席者会員からさまざまな意見が述べられましたが、最大公約数の意見として「会員名簿を発行する」という点で合意が得られました。

### 終身会費納付額設定表(平成26年4月1日~平成27年3月31日まで)

950~890	30,000円	75回	37,000円	61回	23,000円
88回	50,000円	74回	36,000円	60回	22,000円
87回	49,000円	73回	35,000円	59回	21,000円
86回	48,000円	72回	34,000円	58回	20,000円
85回	47,000円	71回	33,000円	57回	19,000円
84回	46,000円	70回	32,000円	56回	18,000円
83回	45,000円	69回	31,000円	55回	17,000円
82回	44,000円	68回	30,000円	54回	16,000円
81回	43,000円	67回	29,000円	53回	15,000円
80回	42,000円	66回	28,000円	52回	14,000円
79回	41,000円	65回	27,000円	51回	13,000円
78回	40,000円	64回	26,000円	50回	12,000円
77回	39,000円	63回	25,000円	49回	11,000円
76回	38,000円	62回	24,000円	480~	10,000円

# 甲陽学院同窓会奨学金ファンド醵金者一覧

平成25年6月1日以降12月31日までにファンドに醵金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。 まことにありがとうございました。(平成25年5月31日以前に醵金された方は73号~88号に掲載しております。)

4回	山野井	萬御遺族	38回	吉本	文彦	51回	近藤	友之	59回	柴田	良平
18回	木村	英造	39回	加輪上	:敏彦	51回	辰野	久夫	59回	島本	佳憲
19回	石井!	賢治	39回	榊	靖夫	51回	横田	真彰	60回	阿多	博文
20回	沖野	秀雄	41回	大辻	孝雄	52回	小原	進	60回	田村	泰章
24回	織部	成一	42回	宮崎	恒彰	52回	土居	章展	61回	塩見	洋作
27回	貴志	俊興	42回	八東正	司夫	52回	飛田	圭吾	61回	中村	卓司
27回	光野	昭	43回	衣笠	隆之	53回	安達	修平	62回	長宅	芳男
28回	塚本	恵造	43回	藤本	勝司	54回	中野	茂	63回	森	啓行
31回	富士川	真二郎	44回	木村	正昭	54回	前田	<b>→</b>	64回	岡原	正周
31回	八木	頼夫	45回	小西省	三郎	54回	稙田	和孝	71回	鮒谷	周史
33回	大宮	洋	45回	小林	智夫	56回	大野	順弘	72回	小北	隆夫
33回	若田雄	太郎	45回	長谷川	祐蔵	56回	佐野	隆夫	74回	徳岡	俊治
34回	江隈	一夫	47回	宇和	繁雄	56回	山崎	茂久	75回	木村	尚史
34回	酒井	宏	49回	長島	久明	57回	白尾	誠二	76回	向井	啓治
35回	尾山	<b>啓</b> 一	49回	山中	若樹	57回	新屋	久幸	88回	岡本	将孝
38回	江嵜健	一郎	51回	内田	邦彦	57回	春名	優樹	44回	古希の	)会

毎号毎号同じようなお願いばかりで恐縮ですが、今回も奨学金ファンドへのご協力をお願い申し上げます。

このファンドは、平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を始めました。 奨学生は、定期採用6名(各学年1名)と緊急採用(中学2名まで、高校2名まで)で、その選考は母校に一任しており ます。平成25年度は9名の在校生に奨学金(1人年間20万円)を支給いたしました。また、平成18年度からでは延べ 61名の生徒が本奨学金を受給しました。

昨今の社会・経済情勢は、甲陽の生徒・保護者にとっても決して無縁ではなく、会社の倒産、リストラ、離婚など、母校の後輩たちを取り巻く環境は、良好とばかりは言えません。本奨学金制度は、間違いなく母校と在校生にとって 有意義なものとなっています。

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が必要なことは申すまでもありません。各回生におかれましては募金活動に取り組んでおられると存じますが、回生別の募金件数の表によりますと、この1年間で特に積極的に取り組まれた回生もあるようです。感謝申し上げます。夏の会員総会のホームカミング学年を中心に今後とも募金活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

醵金方法は下の通りです。一口1万円から何口でも結構です。また、一度ならず何度も醵金下さる方も大勢いらっしゃいます。ありがとうございます。なお、税法上の寄付控除の対象にはなりません。

皆様ご存じのように、母校甲陽学院には、保護者・卒業生からの寄付を募らないという誇り高い方針があります。 そんな中で、<u>奨学金ファンドは、同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。</u>皆様のご協力を重ねてお 願い申し上げます。

## [醵金方法]

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醵金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド に お振り込み下さい。
  - (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

## 学校だより

# 同窓生講演会(中学校)

# 一隅を照らす

日本銀行大阪支店副支店長 長野 聡 氏(62回)

2013年11月21日(木)の6時間目、 甲陽学院中学校講堂において同窓 生講演会が開催されました。本年度 の講師、長野聡氏は1981年に高等 学校を卒業した62回生で、東京大 学法学部を卒業後、日本銀行に入行 され、現在は大阪支店の副支店長と してご活躍されています。



氏は、「お金」にまつわるお話として、私たちが普段何 気なく使っているお札の信用の源や、電子マネーの決済 の仕組みなどについて分かりやすく解説されました。そ の中で、「お金」がその信用、通用性を保つための諸条件 として、破れにくい紙幣という物質的な側面、預金をす ぐに引き出すために必要なATMや電子マネーを決済す るために必要なシステムなどの安定性、また偽造しにく い紙幣といった技術的な側面、治安の安定とそれを支え る警察、法などの社会的・制度的側面など、大変多くの 例を挙げられました。それは「お金」という社会の"一 隅"を取り上げてみたとき、突き詰めていくと実はそれ だけたくさんの知識が必要になるのだということを含意 しており、どんな物事であっても突き詰めていくと、あ る時単純で普遍的な"公理"に「コツン」とぶつかって、 社会の様々な仕組みがどこかでつながっているというこ とがわかるのだという氏の言葉につながっていきます。 これには筆者も大変感銘を受けたとともに、おそらく、 中学生諸君も今取り組んでいる日々の学習がいずれどこ かで必要になり、役に立つのだということを理解してく れたのではないかと感じました。また、お金を稼ぐこと、 貯めることが自己目的化してはならない、という言葉に は筆者自身もドキリとさせられる部分がありました。人 の役に立つことをしていればお金というものは勝手に入 ってくるのであって、制度の変化や社会情勢の変化によ って一日にして信用を失う可能性のあるお金を目当てに 職業選択をするのではなく、どんな状況であっても普遍 的な「人のために」という気持ちを持つべきである、そ う力を込めて述べられる長野氏の姿は、本当に大切なも のを見誤ってはいけないのだという強いメッセージを発 していました。お金のことを端緒にし、物事の本質を捉 える今回の氏の講演は、生徒だけではなく我々大人にと っても、生き方を見つめる良い機会になったように感じ ました。 (森田裕樹 記)

## 同窓生講演会(高等学校)

音楽と科学・音楽と社会―ライブ演奏とともに― 音楽家・ギター奏者 西垣林太郎 氏(78回)

昨年11月12日 (火)、高等学校の 視聴覚教室を会場として、音楽家で ギター奏者の西垣林太郎氏をお招き して講演会が開催されました。西垣 氏のお話は、音楽と科学の歴史を軸 とし、今日多岐に分かれているさま ざまな専門分野の間に潜む関連性に



及び、そして「音楽とは何か」という根源的な問いに対する深い示唆へと続くものでした。また、持参された初期の様式のギターで当時の楽曲を実際に演奏されたときは、会場全体が荘厳かつ神秘的な雰囲気に包まれました。音楽の世界がいかに幅広く人間社会のさまざまな場面と結びついているのかを丁寧に解説されたこの日のお話は、これから人生の進路を決めようとする高校生たちへの貴重なメッセージになったと思います。 (森口 匡 記)

# 進路講演会

とても役に立つ数学~問題解決のための情報と数理~大阪大学大学院情報学研究科准教授 梅谷俊治氏(74回)

昨年6月21日(金)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において進 路講演会が行われました。講師にお 招きした梅谷俊治氏は1993年に甲 陽学院高等学校を卒業後、大阪大学 基礎工学部に進学されました。同大 大学院基礎工学研究科、京都大学大



学院情報学研究科で学ばれ2003年に情報学の博士号を 取得後、豊田工業大学、電気通信大学での勤務を経て、 2008年から大阪大学大学院情報学研究科情報数理学専 攻の准教授を務められています。講演の前半は理工系を 中心とした大学進学に関する話題で、実際に進学した人 や仕事をしている人に話を聞いて具体的なイメージをも つこと、偏差値と教育研究の質は必ずしも一致しないの で入念に調べることなどが大切、そして興味の赴くまま に本を読むだけで視野が広がるので読書をしよう、とい うアドバイスをされました。後半は、数学は世の中でど のように役に立っているのか?という視点から、音声・ 画像処理、自動翻訳、金融工学などのさまざまな分野に おける数理科学の応用例を多くの具体的な実用例を紹介 しながら分かり易く説明していただきました。まとめと して、大学受験がゴールではなく、大学やさらにその先 にある仕事を見据えることが重要、数学を良く知ると現 実の世界とは全く異なる視点で現象や問題を捉えて解決 することが可能になる、というメッセージを送られました。生徒達は普段学習している数学とは随分違った側面に触れ、進路選択の幅が広がったのではないかと思います。後日梅谷氏から「母校での講演は成し遂げたかったことの一つで、とても嬉しく充実した気持ちです。今後は高大連携を前に進め交流を持つ機会を増やすことが出来ればと思います。」という感想を頂いています。

(溝口貴浩 記)

# 中学校 英国語学研修

中学3年生70名は、昨年7月21日から8月7日の日程でロンドン近郊のイーストボーンでの語学研修に参加しました(最後2日間はパリ観光)。生徒たちは語学学校で同じ年頃の外国人と交流し、外国の文化に触れ、貴重な体験ができました。

### <参加生徒の感想>

坂口大輝(中3)

イギリスには合計15日間いて、そのうち6日間がホームステイでした。ホストファミリーはとても親切でした。料理もまずいと聞いていましたがおいしかったです。学校では他の外国人と一緒に授業を受けました。日本人が3分の1くらいだったけど、外国人は英語が上手だったので日本人はほとんど発言できませんでした。日本と違い文法とかは学ばず、いくつかの班に分けて、あることについて相談したりする授業がほとんどでした。

観光はロンドンやブライトンに行きました。ロンドンは人が多いので少しぼうっとしていると前を見失ったりするので気をつける必要があると思いました。

イギリスの気候は、朝は寒く感じるほどで、昼は日本 より少し涼しかったです。

イギリスに滞在した後、ユーロスターに乗ってパリに 行きました。パリ観光ではルーブル美術館やエッフェル 塔に行きました。美術館やバスの中にはガイドの人がい たので普通の観光と全く同じでした。



# 中学校 天文部 近況

平成24年春、当時1年生であった99回生3名によって 天文部が復活しました。

昨年度は金環日食や金星の太陽面通過などの「世紀の 天体ショー」に恵まれ、それらの撮影および展示を軸に し、無事音展での成功を収めることができたと思ってい ます。またブラックホールについての展示に加え、箱型 で窓から覗き込む方式のプラネタリウムも展示しました。 このプラネタリウムは、かつての先輩方が作られ、社会 科研究室に残されていたのを修理したものです。

今年度に入り、3名だった部員は99回生7名と100回生2名の計9名に増えました。来年度入学してくる101回生は昨年度の展示を見ている人も多いと思うので、入部してくれればと思います。

前回の音展では、日本の宇宙開発・ロケット開発の歴史や、彗星・流星群からブラックホールまで、昨年度より展示内容を増やしたものとなりました。更に、アイソン彗星の軌道模型とかつてのプラネタリウムに代わる新箱型プラネタリウムの冬季版を全日展示、クイズも全日実施し、角度を入力すればその方向を指す機械を午後展示しました。その機械に予め計算しておいた数値を代入することで30分毎に火星の位置を指すことに成功しました。プラネタリウムの方も、厚紙で周囲の光が遮断された空間に入り上を見上げると星空が見える、という形に変更、特に子供を中心に好評を博しました。全体的に、昨年度を超える大成功であったと言えると思います。

来年度こそは、部屋の半分をカーテン等で仕切り、真っ暗にしたところで投影式のプラネタリウムを展示したいと思っています。

また今後、ブラックホールに関する更に深い展示や、 天文学の歴史など他の分野とも関連する展示をしていき たいと思っています。

まだスタートラインを切ったばかりの新生天文部への 応援をこれからもよろしくお願いします。

天文部部長 末久義朗(中2) 記

## 高等学校 バレーボール部

# 全国私学大会 4年連続出場決定

平成26年4月1~4日に東京都・神奈川県で行われる、第19回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会に4年連続の出場が決定いたしました。今年のチームは前回、前々回のメンバーと比べるとかなりサイズが小さく、近畿予選2次ラウンドにおいても苦戦いたしました。しかし、何とか兵庫県の二枠に入り、出場権を手にしました。また、卒業生のご尽力で、今回は遠征中に東京大学バレーボール部様との練習試合も計画しております。大会の詳細は、2月下旬さくらバレーのホームページにアップされる予定です。どうかひき続き応援よろしくお願いいたします。

## 【全国私学大会東京遠征 行程】

3月31日(午後) 対東京大学練習試合(駒場キャンパス)

4月 1日(午前) 対神奈川大学練習試合(横浜キャンパス)

(午後) 開会式(町田市立総合体育館)

4月 2日 予選 5チームリーグ戦(2試合:会場未定)

4月 3日 予選 5チームリーグ戦(2試合:会場未定)

4月 4日 決勝 トーナメント(町田市立総合体育館)

# 第61回甲関戦 本校が総合優勝

去る平成25年9月11日(水)に関西学院において第61 回交歓競技会(甲関戦)が開催されました。今年も九競技 とそして応援で、熱い闘いが繰り広げられました。競技 の様子をお知らせします。

午前中に実施された競技は、サッカー・卓球・テニス・バレーボール・バスケットボールの五競技。サッカー: 善戦するも後半に2点を取られそのまま逃げ切られる。 0対2で惜敗。卓球:県大会出場の実力を発揮して7対2 で快勝。テニス:各試合とも善戦するが関学やはり強く 1対6で敗れる。バレー:この試合を最後に廃部となる 関学男子バレー部は市内有数の実力校の本校相手に健闘。 本校も堂々と闘いこれを退ける。0対2で勝利。バスケットボール:最終ピリオドの関学の追い上げは立派。しかし落ち着いて対応し54対48で勝利。

午前中を終わって3勝2敗でリード。

午後は剣道・水泳・野球・陸上の四競技。剣道:地力を十分に発揮した甲陽が2勝3分けで快勝。水泳:甲関戦記録連発の関学強し。力を尽くすも18対38で敗れる。野球、陸上を残し4勝3敗。

野球:関学の序盤の攻勢で三回を終わって0対4。関 学のピッチャーがすばらしく、野球場とは離れた陸上競 技場で行われている陸上の結果が気になり始める。気を取り直して懸命の応援もむなしく0対6で敗れる。その直前陸上勝利の一報が飛び込む。ヤッター。陸上:各競技とも粘り強くポイントを重ねリレー競技で勝ち越したことも勝因。得点は26対22。

通算5勝4敗で総合優勝!今年も記録には残らないけれど懸命のプレー、懸命の応援はさすがの感がありました。また終わった後お互いをたたえ合う様子が各所で見られました。



さて61回を重ねた甲関戦ですが、9月の平日開催という形での実施は今年が最後となりました。関学の女子生徒の問題等を考慮すると交互に会場として実施することが難しいことがその理由です。しかしこのまま中止してしまうにはあまりに惜しい交流戦だとの思いは皆に共通のものです。そこで形を変えて存続していこうということになっています。来年度は夏休み中に甲陽・関学の両

校に分かれてクラブごとで実施の予定です。ますます生徒諸君に有意義な交流戦となって存続・発展していって欲しいものです。





学校だより

# ブータン駆け足旅日記

―国民総幸福は本当か、市場経済の波風かぶる現状も垣間見える―

江嵜健一郎(38回)

「有馬頼底師と行く幸福・神聖なる仏教国ブータンを訪ねる旅」(2013年11月5日~11日)から帰国したあとも、しばらくは、ブータンの時間で流れる残像に浸っていた。昼間は既に頂上に雪をいただいたヒマラヤの山を遠景に、どこまでも澄んだブルーの空、夜は明け方に霜が残る凍りつくような寒さの中できらめく満天の星空が目になお焼きついている。「米と麦の二毛作のお百姓さんは、今、農閑期で、のんびりしているところです。」とブータン人のガイドが、見事な日本語で説明してくれた。11月は、ブータンでは、稲の取り入れが終わり、12月から麦の種まきが始まる。放し飼いの牛が掘り返した田んぽの中で、のんびり草を食んでいた。

「日本語がお上手ですね」とガイドに水を向けたところ、「ブータン語(ゾンカ語)と日本語は文法が同じですから」と答えてくれた。ブータン語さっぱりの筆者にとっては、英語が通じたのでありがたかった。ブータンでは、小学校1年生から国語以外は英語で行われる。旅程4日目の8日、首都ティンプー市内視察先の一つとして訪れた公立高校では授業中、教室に入れてもらうことが出来

幸いだった。学校の正面に、ブータン語は読めないが、 Rinchen High Schoolと併記されていた。引き締まった 口元に加えて一人一人の生徒の目が輝いていた。強く印 象に残った。校庭に集まった生徒全員約900人がお経を 唱え我々一行を見送ってくれた。朝礼の時に毎朝唱える お経だと聞いた。



ブータンという国は何で食べているのか。ガイドの説明では、ヒマラヤ氷河の豊富な水で水力発電、インドへ

電力を売って得たお金や外国からの支援が主な収入源である。義務教育は無料であるが、学校に行くための制服や授業に使うノートなどは自分で買い揃えなければならない。医療費は、たとえ外国からの旅行者であっても基本的には無料である。ブータンは今、バブルのまっ最中で、地価は一年で倍以上、日本の10年くらいの変化をブータンでは1年で感じているような気がするという話も聞いた。ブータン通貨:ニュルタムはインドルピーと連動している。 $2 \sim 3$ 年前は、1インドルピー(ニュルタム)=2.5円だった。それが2013年11月の為替レートでは、1インドルピー(ニュルタム)=1.5円へ値下がりしている。ブータンはインドからの輸入が多い。インドルピー安になるとそのままブータン通貨安となる。土地の値段だけでなく、輸入インフレの影響で、自国通貨安になれば、勢い物価は高くならざるを得ないだろう。

少しデータは古いが、日本の外務省報告書によれば、ブータンは自給自足経済から市場経済へ堅実な歩みを続けた。GDP成長率は2002~2008年(第9次5ケ年計画)では18%の成長を維持したが、08年は6.7%、10年は7.4%へ低下した。2010年のGDPは15億ドル。11年、12年と伸びたはずのブータンGDPも、インド経済の悪化の影響を受けたであろう。ブータンはほとんど全ての消費財、資本財をインド及び他国からの輸入に依存している。人口の70%は農村に住む。自給自足中心の農業に従事していると書いていた。

ブータンは50年前まで鎖国だった。外国との交流は一日4便の空路が支えている。人口70万、島根県に近い。国土面積は九州のほぼ9掛けである。ティンプーまでトヨタ製マイクロバスに乗ったが舗装された道路が突然ガタガタ道に変わる。いま首都近辺では建築ラッシュ、バブル真っ最中だと、ガイドは話した。その一方で、今回泊った一流ホテルとされる宿ではシャワー途中、湯が止まり水に突然変った。湯船も一杯にならない。生水は当然飲めない。旅行会社は我々旅行客が水を切らさないように、生水の入ったペットボトルを配ることに全神経を使っていた。

先の外務省の報告によれば、ブータンの外交上の主要 懸案事項はネパール系ブータン難民問題だと知った。たまたま11月10日付け日経夕刊に社会学者、古市憲寿氏が「一時期、ブータンは、日本でも幸福の国として注目を集めていた。しかし、実際のブータンは、多くの難民が発生する国である。桃源郷と程遠い。」と書いていた。この手の記事は、ミスリードする可能性もあるだろう。 難民問題は、ブータン政府にとっては、極めてセンシティブな問題である。難民キャンプにいる人で、多くの方が、第三国に移住を決め、決着に向かっているという話を聞いた。

ブータン人は、殺生はしないという世界も目のあたりにした。移動バスにたまたま迷い込んで来たハチ2匹をガイドさんは、なにやら呟きながら、優しく逃がしてやっていた。殺生しないとはいうものの、バイキング料理には、肉料理が出て来た。ブータン産の肉も販売されて

いるそうだ。今回のツアーで、改めてブータンが大変な親日国だと分かった。今回ツアー最大のイベントは、王宮に隣接するゾン(城)前庭で、国王直々のお出迎えを受けたことだ。国王は2年前、金閣寺をご夫妻で訪問された。今回はその答礼の意味も兼ねた。国王直々のご挨拶から国王の日本に対する熱い思いがひしひし伝わった。

ガイドの話に戻す。「今日のブータンがあるのは西岡さんのお陰です。」とガイドが日本人の名前を突然口にした。西岡京治さんといい、1964年にブータンの地をはじめて踏み、28年間、ブータン人に命がけで農業技術指導を行った。帰国後知ったが、西岡氏は、1980年「最高に優れた人」を意味する「ダジョー」の称号を与えられた。氏は家族の希望でブータンの地で眠っているとガイドさんは話していた。

「因みに、墓をつくらず散骨する習慣がブータンにあります。」と、パロからティンプーへの途上、岩場に見える白い塊をガイドが指差した。遺骨の一部を粉にしてツァツァ(白い塊)を作るが、ほとんどは火葬場近くにある川に散骨する。白い塊は見晴らしのいい場所もあるが、寺院の裏庭にも見かける。お年寄りは、神聖な場所、縁のある寺院などを希望する人が多い。ブータンでは、火葬・鳥葬・水葬それぞれあるが、その土地の条件や亡くなった人の年齢などによって決まる。

博物館を訪問した時、ブータンが鳥をはじめ動植物の珍種の宝庫であることも知った。特に鳥類は650種がブータン固有の世界の珍種であると説明ボードに書いていた。研究者にとっては堪えられない秘境の地として位置づけられるだろう。渡り鳥の安全な休憩地としても知られる。鳥たちにとって楽園なら、厳しい自然環境下におかれた人間にとっても、外からの外敵の侵入をブータンの地は拒んで来た。ブータン国境の南はインドに、西、北、東は国交を締結していない中国に面している。中国国境は、インド軍・ブータン軍共同で警備にあたっている。ただ、ブータンの軍事費は全額インドが負担していると先の外務省の報告書にあった。

わずか3日ばかりの駆け足ブータンの旅だったが、多くのことを学ばせてもらった。なかでもただ幸せの国ブータンでないことも知った。自給自足の生活から脱皮する過程で、いまバブルの真っ最中という話も聞いた。市場経済の波風を好むと好まざるを得ず受けつつある厳しい現実も目の当りにした。10年先のブータンをこの目で今一度見たい気もする。

今回のブータン・ツアーは、ひとえに有馬頼底先生を 団長とする京都仏教会主催の巡礼の旅というご縁をいた だいたお陰である。日本画家、森田りえ子さんが桜の絵 を描いて、直々、国王陛下に手渡された。小生が日本画 の手ほどきを受けた森田りえ子先生からブータン・ツア ーの案内がなければ参加していなかった。加えて本レポートをまとめるにあたり、ブータン政府勤務で、ブータンに6年お住まいの石田香澄様に貴重なご助言をいただいたことに併せ感謝申し上げる次第である。 (了)

# リレーエッセー

# 裁判員制度余話

# 樋渡利秋(45回)



思い出せば平成20年の夏の同窓会で、「甲陽の思い出…これからの社会」と題して皆様にお話しする機会を与えられ、翌21年5月から始まることになっていた裁判員裁判制度にも触れて、「この制度は、国民の常識や感覚を司法に反映させるもの

だ」と話しました。この制度も発足以来4年有余の年月が経ち、既に全国で数万人の方々が裁判員等として関与されています。その中には、100日もの長期間に及ぶ公判審理を、当初に選ばれた6名の裁判員が一人も交代せずに成し遂げてくれた事例もあり、感動しましたし、また刑の量定について、国民の声に接することができたのではないかと思っています。そして、「施行後3年経過した場合、必要があるときは、所要の措置を講ずる」との法の附則規定に基づき検討を重ねてきた有識者からなる「裁判員制度に関する検討会議」は、昨年6月その見解をまとめ、「裁判員制度の運用状況はおおむね順調である」と評価しました。またマスコミの論調も好意的であり、この制度は着実に我が国に定着したようです。

そこで、同窓会での話の続きとして、明治以来の「司法への国民の参加制度」への取組みの歴史を綴ってみようと思います。我が国におけるこの制度としては、裁判員制度が初めてではなく、戦前に陪審制度があったことは皆様もご存知でしょうが、これがどのような経過ででき、何故終わったのかについては余り知られてはいないと思うからです。

## $\Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow \Rightarrow$

明治新政府の大きな外交案件の一つは不平等条約の改正問題でした。治外法権の撤廃、関税自主権の回復のためにも西洋の文明・制度の導入に積極的に取り組み、三権分立の思想の下に司法制度も欧米流に変革するべく、多くの法律学者を招聘しています。その一人でフランスから招いたボアソナードの作成した治罪法(現在の刑事訴訟法)草案には、陪審制度が採り入れられていました。彼の考え方は、日本の司法制度を欧米と同じにして司法の独立を印象付けることが、治外法権の撤廃ひいては不平等条約の改正への近道だということのようでした。しかし、欧米の制度の導入に熱心であった政府も、この陪審制度にだけは納得しなかったのです。文明開化の始まったばかりの我が国では、とても欧米人の真似はできず、陪審制度を採用しても失敗し、そうなればまた外国から甘く見られてしまうと案じたからだというのです。

それから時は流れ明治も末になったころ、再び陪審制

度が論議されるようになりました。主唱したのは、当時 の野党「政友会」を率いていた原敬で、明治43年、政 友会が議会に提出した「陪審制度の設立に関する建議 案」が満場一致で衆議院を通過します。因みに、原は、 司法省法学校生徒としてボアソナードに学び、その後も 親しくしていたようです。そして大正7年9月に成立し た原内閣は、陪審制度の具体的な法案作りに取り掛かか りました。原内閣は、この法案を議会にかける前に枢密 院に諮問するのですが、その際、原首相は、「陪審の現実 は、人民をして司法事務に参与せしむるにある。我が国 においては議会を設けられ、人民が参政の権を与えられ たるに、ひとり司法制度は何ら国民の参与を許されざり き。憲法実施後30年を経たる今日においては、司法制 度に国民を参与せしむるは当然のことなり。」(大正10年 1月枢密院第1回陪審法案審査委員会)と、つい最近でも 通用するような格調の高い演説をしています。このよう に原内閣が陪審制度を進めるようになった背景としてい くつかの事情が推測されていますが、その内の一つにい わゆる大逆事件の影響があります。明治43年に発生し たこの事件では、幸徳秋水ら20数名が、証人調べをす ることもなく、たった1ヶ月の間に大審院で有罪にされ、 多数の死刑判決が出されました。ところで、明治憲法で は、「司法権ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行フ」と定めら れており、判決書には「天皇ノ名ニ於テ」という朱印が 押されていました。そこで、このような重大事案に接す ると、このままでは、裁判結果の責任が天皇にも及ぶこ とになりはしないかとの危惧を感じ、有罪・無罪の事実 認定という裁判の核心部分の責任から天皇を外そうとし たのではないかというのです。

ともあれ、枢密院の審議は、原内閣の思うようには進展しませんでした。ネックになったのは意外にも憲法問題だったのです。明治憲法では、臣民は「裁判官ノ裁判ヲ受クルノ権」を奪われることはないと規定されていました。ところが、陪審制度の本質は、その評議に裁判官の加わらない陪審員だけの評決で、裁判の核心部分である有罪か無罪かを決めることにあるのですから、枢密院では、国民のこの憲法上の権利を奪うことになるとの疑義が出され、撥ねつけられ続けたのです。しかし、政府も諦めず、原首相が不幸にも大正10年11月に凶刃に倒れた後も、後継内閣が取り組み続け、終に加藤友三郎内閣の大正12年4月に陪審法が成立して公布され、昭和3年10月に施行されることになったのです。

この陪審制度は、昭和18年に停止されるまでの15年間実施され、その間484件の陪審裁判が行われています。 停止されたのは、戦争末期になり、陪審団を構成するゆ

とりもなくなったことが直接の原因ですが、それだけで はなく、制度自体に内在する問題点から、そもそもこの 制度の存続意義が無くなっていたのだと思います。憲法 解釈上の疑義を回避しながら創案された我が国の陪審制 度は、もはや英米流の本来の陪審制度とは全く異質のも のになっていたのです。先程の臣民の権利を保障するた め、簡単に言えば、裁判官は陪審員の評決に拘束されず、 それが正しくないと判断すれば、陪審を組みなおして何 度でもやり直すことができるとした上、陪審裁判を選ぶ か裁判官による裁判を選ぶかの選択を被告人の意思に任 せたのです。こうなればどのような結果になるかは明ら かで、どっち途裁判官の判断に委ねることになるなら、 最初から裁判官に頼った方が心証が良くなると考えるの が人情でしょう。制度導入当初こそ、初年の2ヶ月余り で31件の、翌年も143件の陪審裁判が実施されたものの、 3年目には既に66件と前年の半数以下に激減し、以後減 り続ける一方でした。しかしながら、陪審員として関与 した国民がこの陪審裁判に真摯に取り組んだことだけは 間違いなく、陪審裁判484件のうち、5%の24件が裁判 官によりやり直し(陪審更新)を命ぜられながらも、他方 で17%の81件が無罪になっていますが、これだけ多く の無罪評決を裁判官が受け入れたのもその証左の一つだ と思います。

戦後、陪審制度を復活させるかどうかを議論していますが、結論的には、資金的ゆとりもなく、宿題とされました。しかし、当時の木村篤太郎司法大臣は、「民主制にとって陪審は適当な制度である」と国会で答弁していますし、新憲法では、解釈上の疑義を避けるため、「裁判官の」ではなく「裁判所の裁判を受ける権利」に直すなどの手当てをしています。そして半世紀以上経って漸く裁判員制度として宿題を果たすことができたのです。

$$\diamondsuit$$
  $\diamondsuit$   $\diamondsuit$ 

今回の司法制度改革の際も、明治時代と同じように、 このような制度は日本人には向かないと多くの人々から 言われたものでした。要するに日本人は自分の意見を言 わないからというのです。しかし、東日本大震災の際、 暴動も略奪騒ぎも起こさず、お互いに他人を思いやりな がら秩序を乱さず復興に勤しんでいる日本人の姿が、世界の人々をどれ程感嘆させたことでしょう。殊更に自己主張することと、自分の信念をしっかりと持ちつつ判断し、行動するということとは全く別物だと思います。

幕末に来日したトロイ遺跡の発掘者シュリーマンは、 清国から日本に渡ってきた際の旅行記の中で、粗末な身なりながら料金を吹っかけない艀の船頭や、賄賂も受け取らずに親切丁寧な税関員等の対応に驚嘆と畏敬の念を書き綴っています。このように開国後の幕末・明治時代に来日した多くの欧米人が日本人の文化・教養の高さを賛美しており、またそのころの江戸の識字率は、ロンドンの30%に比し、70%だったそうで、日本人は、明治の当初から陪審制度を十分に実施できる素養があったはずだと思います。

あのころの我が国の指導者達は、西洋の文明の高さに 驚く余り、それに追い付くことにばかり気を取られ、それを十分にこなせるだけの我が国の文化の高さを軽視していたのかもしれません。しかしながら、当時の青年達が進取の気概に富んでいたことは疑いようがなく、彼らは、言葉もうまく通じないまま海外に渡って勉学に励み、我が国の発展に尽くしてきました。私の父祖の地鹿児島の桜島に「わが胸の」燃ゆる思ひに くらぶれば 煙はうすし 桜島山」という幕末の志士平野国臣の歌碑があります。北の地ではクラーク博士が「少年よ、大志を抱け」と言っています。事に真っ直ぐに向き合い、将来に大きな夢を持つことこそが若い人達の本来の姿だと思います。これからの若者もこのように育って欲しいものだと思います。

今夏の同窓会でも皆様にお会いできることを楽しみにして筆を擱くことにします。(ホームカミング学年の45回生へ:東京同期会は多数参加の計画を進めているので、関西在住の同期生もこれに応えて大勢で盛り上げてくれることを願っています)。

(著者略歴) 東京大学法学部卒業後、1970年に東京地検 検事に任官。法務省事務次官、東京高検検事長、検事総 長などを経て、TMI総合法律事務所顧問弁護士。

## ☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した95回生の皆さんは、卒業時点 で終身会費を納めることを選択できます。その方法 については、後日別途ご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方(卒業時に7年分の年会費を前納)でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.2の表をご覧下さい。

## ☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- \*次号・第90号は、本年7月末頃に発行を予定しています。
- \*「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文 化部のOBだより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「ク ラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿 をお待ちしています。
- \*原稿の締切日は、本年6月10日です。

# 会員だより

# 25回 桜組・桃組・梅組 合同クラス会

平成25年度 桜組・桃組・梅組 合同クラス会を10月17日(木)に、大阪・北新地パーティパークで開催しました。本年は、桜組3名、桃組1名、梅組2名 計6名の出席でありました。

桜組:錦織達郎、小田圭昭、安達正昭

桃組:松原市郎

梅組:髙田典雪、平井健男

桜組の小田さんは山形県鶴岡市から、梅組の平井さんは千葉県印西市から、髙田さんは広島市から参加されました。桃組の行友正裕さんは、出席予定でありましたが、 患者の往診のため出席出来なくなりました。

今回の合同クラス会は、桜・桃・梅の3組が合同で開催した第2回目となります。席上では、時事放談的な話から、身辺に纏る話まで、色々な話題が出て賑やかに話が弾み、最後は、甲陽中学校々歌と応援歌の大合唱で締め括り、散会しました。

(安達 記)



# 33回 在京生同窓会

「甲陽学院第33回卒業在京生同窓会」の結成は1986年10月18日開催の「東京甲陽会」の発起人が同会の盛会を期し、私(谷本)を世話人にすることでその名から私の親(数学教師)を思い出し参加者が増えると考えられたようです。効果はてき面、第33回卒業在京同窓だけでも9名も集まりました。その席上、誰彼となく「これだけ集まるのであれば定期的に会合を持とう」と言うこととなり、決まれば速いものでその年の11月28日に本会の第一回会合を持ち、名簿会員:24名、うち出席者10数名と盛会でした。

その後は原則として年一回開催を心がけ間隔が数ヶ月延びたこともありましたがまあ順調に開催し、昨年(平成25年)も10月22日に「桃杏楼」(ニュートウキョウスキヤ橋本店ビル内)で開催、16人中8名が参加しました。一昨年から開催時間を午後6時から昼の12時30分に変更しました。今では皆さんの酒量も減り、歌うでもなく、各自近況報告を行い、その話の中から懐かしい事柄が紹介されればそれについて話題を拡げ、趣味にもつなげるという心和らぐ会合でした。

ところで、本会と関西の33回同窓会との関連ですが、 分派している訳ではなく、ゴルフその他で繋がっている 方もおられ、また、平成13年10月11日には清水市在住 の糠谷雄祺君のお骨折りで焼津グランドホテルで東西合 同で楽しい一夜を過ごすなどしております。

(谷本 記)

写真は、後列左から糠谷雄祺、谷本裕範、立川浩、西中靖前列左から竹原順三郎、尾崎馨一、鈴木慶三、大江勇三郎



# 38回 生誕75周年記念同窓会

我々38回生は今来年中に後期高齢者となる75歳に到達する。雨にも負けず、風にも負けず、よく頑張って来たものである。「笑顔は努力の証」と伝われているように、集まったみんなはこの75年に亘る努力の成果が顔に表われた風格ある笑顔の集団であった。

我々が75歳を無事に迎えることが出来たのも、これひとえに奥様をはじめ家族の支援の賜であります。そこで、今回の同窓会は家族へ深甚な感謝の気持ちを込めて、いつものホテル形式を離れ、家族を含めた一味違ったものにしようと、美しい街「神戸」を海から眺めるコンチェルトのクルージングで「生誕75周年記念同窓会」を計画しました。

平成25年11月14日(木曜日)正午、神戸モザイク前から出航。前日までの不順な天候も神様のご配慮で申し分のない晴天と穏やかな汐波に恵まれて、着席形式の中華料理のフルコースと飲み物を楽しみ、1時間45分のクルージングで懇親を満喫しました。

# 楽しみは こころかよえる ともだちと 笑ひかたりて 酒をのむとき

(橘 照覧)

参加者は恩師の中島 博先生、中川経治先生、同期生 37名、家族14名、合計53名でありました。中でも88歳の 中島先生と86歳の中川先生からお元気で楽しいスピー チを頂き、我々もあらためて勇気とやる気を貰いました。

今後の同窓会は2年後の喜寿の時、5年後の傘寿の時、7年後の東京オリンピック開催の時と暫定的に決めましたが、みんなの意気軒昂次第ではもっと増えるかも判りません。中島先生、中川先生をはじめ同期生皆様の益々のご健勝を祈ります。

(文責:濱根恒夫)



# 44回 古稀の会

明けましておめでとうございます。

昨年の8月31日に我々44回生(昭和38年卒)は卒業後 50年のホームカミングイヤーを迎え、同窓会総会(55名 出席)に引き続き「古稀の会」を開催しました。幹事団が 「一度は同窓会に顔を出そう」「50年振りの友と語ろう!」 とほぼ全員の住所を探し出し呼びかけたところ、全国か ら卒業生の約半数近い77名もの仲間が駆けつけてくれま した。さらに宮本茂・中島博・中川経治先生もご出席い ただき花を添えてくださいました。宮本先生から「何故 D組が出来たのかの裏話」も披露され一同ひっくり返り ました。くりくり頭の紅顔の美少年達もさすがに五十年 もの年月が経ちますと、相当外観は変わって来てはおり ますが、話すほどにタイムスリップし昔を思い出しなが ら、あっという間の三時間でした。仲間が懇意にしてい る書家「原田幹久」先生にバックの掲示看板を書いてい ただき、尚且つ突然の要請にもかかわらずミニ講座を開 いていただいたのも楽しいサプライズでした。司会者が 多くの友を紹介するため、当時のクラブ活動出身者を増 上に引っ張り出した趣向も大いに盛り上がりました。夏 の高校野球でベスト8にまで残った野球部の活躍は今で も思い出します。バレー部、テニス部、バスケット部、 サッカー部、卓球部、体操部、美術部、化学部、音楽部、 絵画部等々皆壇上に出て一言話しました。 9 年前の "還 暦の会"には御出席頂いた中島久・藤野吉平両先生はす でに鬼籍に入られ、隣にいた仲間も何人かは先に逝って しまいました。「次回は7年後の"喜寿の会"で集まろう。」 と司会者から話がありましたが、図らずも7年後の2020 年は「東京オリンピック」開催の年であります。少なく とも、その日までは健康に留意して頑張ろうと一同三次 会や家路に向かったのであります。

(文責:川淵秀和)



# 44回 中島先生の「祝・米寿」旅行

高校時代所属していた物理部の中島先生と44回同期 (高野・梅木・小浜・林)の旅行はこれまで関西近郊に1 泊で行っていましたが、今回は中島先生の米寿を祝い、 併せてわれわれの古希の記念に北陸に2泊してきました。

秋とは言え、雨模様の10月に車1台で先ず向かったのは金沢でした。渋滞のため宿に着いたのが遅くなり、兼 六公園などの見学はできず、明日の雨を心配しながら 早々に床につきました。

翌日は、当初は立山黒部アルペンルートを計画していたのですが、情報では既に積雪とのこと、急遽白山山麓の温泉宿に変更しました。とは言え以前からの目的地である「称名滝」には行かねばと雨の中車を飛ばしました。さすがに日本一の落差を誇る北アルプスの滝だけあって、滝の水しぶきと風はすさまじく、また雨のためか水量も多くて滝の数もいつもより多く見ることができました。

次に向かったのは、合掌造りで有名な五箇山です。ここでは養蚕だけでなく火薬の原料も作っていたことを初めて知りました。そして白山スーパー林道、この山岳道路でも大きな滝が音をたてて山肌を流れ落ち勇壮な景観を見ることができました。宿では温泉にゆっくりとつかり、地元の美酒美味に満足し、遅くまで談笑して先生の米寿とわれわれの古希を祝いました。

翌日は先ず丸岡城に行き、現存最古の天守閣を見学しました。天守の石瓦と急峻な階段が往時をしのばせてくれました。次に行った永平寺では苔むした寺庭と静かで広壮な寺域に心が洗われました。こうして米寿と古希の祝いの旅は、雨のなか、紅葉にも少し早かったのですが、つつがなく終了しました。なお中島先生はいつもながらお元気で、食事の都度、薬を飲む同期は先生をうらやましく思いました。次回も全員が元気に旅行を楽しめるよう精進します。

(記責:林 正朗)



立山称名滝付近を望む

# 48回 学年同窓会

去る7月27日(土)16時~18時30分に阪急梅田の17番街阪急ターミナル・スクエア・17(新しくオープンしたグランフロントの3つの高層ビルがはっきりと見通せる)にて恒例の48回卒学年同窓会を開きました。初参加は1名、関東からの遠来のメンバーも加わり、参加者は29名。

冒頭、進行役の大塚さんが既に亡くなられた12名の方々の名前を読み上げ、全員で1分間の黙祷を捧げました。続いて、緒方さんの「10年後、20年後もこのように皆元気で集まろう!」の音頭により乾杯を行い、会はスタート。会場は飲み放題ではありましたが、皆さんお年も考えてかマイペースで進行。暫く歓談後、クラス単位の近況報告がD組→C組→B組→A組の順に行われました。ゴルフ・テニスに大忙しのX君、シニア海外協力隊から3月に戻ったばかりのY君、昔取った杵柄とギターにのめりこむ Z君、大学で学びなおす P君、子供も独立し妻と二人の緊張生活を送る Q君、まだまだ仕事にやる気満々のR君とみなそれぞれの生活をそれなりに楽しく報告し合いました。

18時頃に全員写真を撮り、一旦お開き。それでも名 残惜しい10数名はべちゃくちゃしゃべって18時30分に は全員会場を出ました。また来年元気で会いましょう。

(幹事:A池田、B山崎、C大塚、D伊賀)

追伸:48回卒は4年後の2017年8月の最終土曜日に行われる全体同窓会に卒業50年の学年としてホームカミングにあたります。丁度学院創立100周年にもあたりますので是非大勢で参加したいと思っています。現在、メルアド把握は100名余りです。学年同窓会のメール案内が来ない方は山崎又は池田まで連絡してください。

山崎:kanamai2000@yahoo.co.jp、

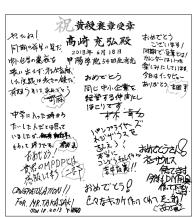
池田: ikeda@smile.ocn.ne.jp

なお、学年同窓会は毎年7月の第4土曜日16時から17 番街の阪急ターミナル・スクエア・17 で行っています。 また、東京でも本年4月にゲリラ的にクラスを超えて集 まり、11名(小森、片野、久保田、落合、秋山、松木、 小島、井上貴博、樽見、柴田、土岐の各君)の参加だっ たようです。来年も4月頃に行う予定で、幹事は小島君 (oskojima@h09.itscom.net)・土岐君(tokinaoto@yahoo. co.jp)です。また、毎年春と秋に学年のゴルフコンペを 行っています。幹事は伊賀君で、今年の春で丁度20回 目だったそうです。 (池田 記)



# 54回 高崎充弘君黄綬褒章受章お祝い会

54回の高崎充弘君が平成25年春、天皇陛下から黄綬褒章を授与されました。さっそく同級生有志が集まり褒章受章のお祝い会を開きました。高崎君は大手造船会社勤務の後、家業を継ぐ形で(株)エンジニアに入社し、以来25年間作業工具の改良考案に従事し、最近では「ネジザウルス」という頭が潰れたネジを外す工具を開発し大ヒットとなっています。大阪のモノづくり中小企業に元気を与える受章ということで、お祝い会の会場は北新地でもミナミでもなく「京橋」で行いました。吉井君お薦めのイタリア料理店ジャンニのフルコースとワインは最高でした。 (文責 齋藤直久)





# 54回 · 55回

# 対抗ゴルフコンペ

## 和気あいあい!スコア忘れて楽しく交遊!!

年1回恒例となりました、標記ゴルフコンペが11月 10日(日)「よみうりゴルフ ウエストコース」で開催されました。

前日の天気予報では、「土砂降り、暴風、カミナリもあるかも」のとんでもない予報でしたが、参加者の日頃の行状をお天気の神様が少し評価してくださった(?)ようで、雨も降ったりやんだり、薄日もさすなど、紅葉を感じながら、プレーには支障のない中で(スコアは倍たたき!でも)楽しく過ごせたことが何よりでした。

個人優勝は、55回生の清見氏で、団体戦はグロスの 平均スコアで、前回に続き54回生の勝利となりました。 (54回生 平均グロス100.8、55回生 同104.8)

参加者は下記のとおりで、例年よりやや少なめでしたが、「和気あいあい、スコア忘れて楽しく交遊」できた一日でした。

次回は平成26年11月16日(日)同コースで開催予定です。54回生・55回生の皆さん奮ってご参加ください。

尚、54回生単独コンペは、平成26年3月2日(日)ダンロップゴルフコース、55回生単独コンペは、平成26年5月5日(祝)宝塚高原ゴルフクラブとなっておりますので、こちらの方も是非 ご参加ください。連絡は、下記のメンバーでしたらどなたでも受付しますのでよろしくお願いします。久しぶりにお会いしましょう!

## 〈参加者〉

54回生:荻田真一郎・竹内孝・林幸男・湯川英彦・

吉井友実

55回生:大塚雄一・糟谷武則・清美敏郎・小島卓・

児玉潔・坂本和則・菅原康雄・西本憲生・

西村盾彦・三代知史

〈次回開催日と幹事〉

平成26年11月16日(日)

54回生:畑善太 55回生:児玉潔

(54回生 竹内 孝 記)



# 甲陽史学会

平成25年8月31日(土)午前10時よりノボテル甲子園において甲陽史学会が開催されました。講師は59回生の辻川敦さん(尼崎市立地域研究史料館長)。「昨今の地域資料保存公開と地域史編さん」と題して講演が行われました。尼崎市立地域研究史料館の事業と「尼崎市史」編纂事業について述べられた後、地域資料保存公開事業(文書館事業)及び地域史編さん事業をめぐる動向ならびに問題点と課題について話されました。次回も会員総会当日に開催いたします。同窓生諸氏のご参加を歓迎します。<参加者>西村善明(36回)長尾武志・森本幸資(37回)江嵜健一郎(38回)橋本久(41回)梅村幸彦・宮崎恒彰(42回)荒木知・奥山哲夫・木谷義紀・田辺征夫(44回)五十川伸矢(50回)久義裕(62回)山内英正(教諭)、浅岡俊夫、田岡春夫、増田行雄



# 「関西甲陽ネット」発足!

平成25年11月30日(土)に梅田スカイビルにて「関西 甲陽ネット」第一回交流会を開催しました。「東京甲陽ネ ットに範をとり、関西において卒業回に関係なく甲陽学 院OBが交流出来るコミュニティを作りたい」との思い で、村上(82回)と岩野(84回)を中心に「関西甲陽ネット」 を発足させ、第一回交流会を企画しました。62回の久 さんに精力的にサポートを頂くとともに、その他多数の 甲陽OBの皆様にも多大なご協力を頂きました。この場 を借りてお礼申し上げます。参加者は最年長が42回の 水野さん・宮崎さん、最年少が94回の柳さんと、バラ エティに富んだ60名。まず久さんから開催に至る経緯 をご説明頂いた後、水野さんに乾杯のご挨拶を頂きまし た。歓談の後、今村さん(72回)、奥村さん(75回)、岩野、 柳さんにそれぞれ甲陽での思い出や近況報告等のスピー チを頂きました。大変な盛会に終わり、幹事一同嬉しく 思っています。これからも甲陽学院関係者の皆様と共 に、関西甲陽ネットが甲陽学院OBが公私ともに幸せな 生活を送る事が出来る一助になるよう尽力しますので、 ご支援を頂けますと大変幸甚です。近いうちにホームペ ージを開設予定ですのでご覧ください。

連絡先(岩野): a.day.in.my.own.family@gmail.com



# サッカー部 初蹴り会

新春の恒例行事、初蹴り会は平成26年1月3日10時より甲陽学院高校グラウンドにて開催されました。OB会長中村氏による挨拶、記念撮影のあと、現役選手チーム対OBチーム、続いて、OB対OBなどの試合が多数おこなわれ互いに親睦を深めることができました。本年はとくにすばらい好天にめぐまれ、暖かい日差しのもと、総勢約80名の御参加をいただき思う存分サッカーを楽しむことができました。来年もまた同様の日時にて開催を予定しておりますのでぜひ御参加くださいますようお願い申し上げます。 (森本 保 記)

# 第13回 甲陽同窓会ゴルフコンペ

(文責:中山裕雄 60回卒)

平成25年10月27日(日)、武庫ノ台GCにて秋のコンペが行われました。台風27号、28号の影響で天候が危ぶまれましたが、当日は絶好の秋晴れのもと、参加者全員プレーを満喫し、その後の表彰式と懇親会でも話が盛り上がりました。

表彰式では優勝者にまず西村ゴルフ会長(甲陽同窓会会長45回卒)より優勝杯が、続いて平田前ゴルフ会長(22回卒)より平田杯が手渡されました。また、西村会長、大西久光氏(36回卒)、優勝者の信谷宗平氏(56回卒)よりスピーチを賜り(内容は下記の通り)、暫し歓談の後、来春のコンペでの再開を期して全員賞品を手に散会しました。

【西村会長スピーチ】本日、好天のもと無事コンペを行うことができ嬉しく思います。春のコンペが悪天候で中止になり、今回も前日まで天候が危ぶまれましただけにほっとしております。私も顔が少し赤く日焼けしたかなあという感じです。昨年のコンペで大西久光氏よりスイングやパターについてアドバイスを頂き、よく練習するように言われたのですが、なかなか時間がないまま本日のコンペを迎えました。ティーショットでのミスもありましたが、私としましては順位、スコアーとも満足しております。ただ、私事ながら、弟(盾彦氏55回卒)にグロスで負けたのが残念です(一同笑い)。本日はどうもありがとうございました。

【大西久光氏スピーチ】本日は晴天に恵まれ何よりでし た。アメリカにはフェデックスカップというのがありま す。これはシーズンの大半の試合でポイントが決められ ており、その獲得ポイントの合計で順位を競うものです。 今年はヘンリック・ステンソン選手が1位でしたが (PGA ツアーは9月が最終月)、この獲得ポイントの優勝賞金だ けで1,000万ドル。このトーナメントの優勝賞金が約1億 5千万円。ステンソン選手はこの最終トーナメントで優勝 しましたので彼は最終の試合だけで合計約11億5千万円 獲得したことになります。このようにアメリカでは色ん な工夫がなされています。同窓会ゴルフコンペもこのよ うなストローク方式以外のポイント制やホールマッチ方 式の得点制などを取り入れるとコンペが楽しくなろうか と思います。また、シーズン中のフェデックスカップの 獲得ポイント順位に着目するとPGAツアーが面白くなる と思います。次に、松山英樹選手と石川遼選手の違いに ついて。石川君はいいショットをしようということにこ だわりすぎており、松山君のほうはスコアーがよければ いいという感覚が強いと言えます。松山君は元々パット が巧いのですが、ショットの調子が悪くてもスコアーを 何とか纏めてきます。石川君はショットが悪くなるとそ れが本来得意とするアプローチやパットにまで影響して きます。やはりゴルフには割り切りと思い切りが必要で す。絶対にミスショットしない方法も絶対にはずさない

パッティング方法もないのです。松山君は全英でスロープレーによるペナルティを課されました。これはゴルフで最も大切なマナーに関わることですので、皆さんこの点だけは彼の図々しさを真似しないで頂きたいと思います。有難うございました。

【優勝者:信谷宗平氏(56回卒)】初参加にも関わらず優勝してしまい恐縮です。幅広い年代の同窓生の方々とお会いでき、情報交換し合い、若返った気分を味わい、先輩諸氏より色んなことを教えて頂ける機会に恵まれ、本当に楽しく良かったなと思っています。このコンペの面白さを同級生に伝え、次回は大勢誘って参加したいと思います。本日はありがとうございました。

[上位の結果(敬称略)]	グロス	ネット
優勝:信谷宗平(56回卒)	95	71.0
2位:西村善明(36回卒)	97	74.2
3 位: 坂本和則(55回卒)	84	75.6

当ゴルフ会では、同窓会会員の交流と発展のため多数の 方々の参加を大歓迎しています。お一人でも、同級生同 士お誘い合わせの上でも結構です。お気軽にご参加下さ い。初心者・初参加の方、心よりお待ちしております。



全体集合写真



平田杯の授与



優勝杯の授与

## 第14回甲陽学院同窓会ゴルフコンペお知らせ

日 時:平成26年4月27日(日)

午前8時集合 午前8時30分スタート

場 所:武庫ノ台GC

(神戸市北区:西宮北ICよりR176経由約15分)

連絡先:甲陽同窓会ゴルフ会事務局、下記の何れかに連

絡下さい。

中村貞三(35回卒) E-mail: teisan@d4.dion.ne.jp 吉井友実(54回卒) E-mail: yoshii517@hcc6.bai.ne.jp 中山裕雄(60回卒) E-mail: hiroo-na@d5.dion.ne.jp

申込締切:3月31日

# 第61回甲陽灘サッカー定期戦





本年度の定期戦は、当初の予定では9月16日(月)の祝日に灘高校人工芝グラウンドにて実施することになっていましたが、前日より台風が接近し危険が予想される事態となりましたので、中止となりました。それに代わって、2013年11月17日(日)甲陽学院中学校グラウンドにおいて、第61回定期戦がおこなわれました。

例年通り、9時開会式の後、中学、高校の順で試合を行い、中学校は1対1で引分け、高校は5対0で甲陽学院が勝利しました。また高校の試合においては、甲陽学院サッカー部OB会長中村貞三氏より優秀選手賞が贈られ、先制ゴールを決めた香川君、2得点をあげた下地君、失点0に貢献した名和君の3名が受賞しました。

なおOB戦につきましては、9月16日の午後に来場された両校のOBによって小規模ながら実施する事ができました。また、OB戦終了後、近くの会場にて灘、甲陽合同でのOB懇親会もおこなわれ、なごやかな雰囲気のうちに終了しました。 (森本 保 記)

# 甲陽 - 灘 サッカー定期戦 戦績一覧

昭和28年 昭和29年		中学校 高等学校	
		勝 負 勝	負
昭和29年 昭和30年 昭和31年 昭和32年 昭和33年 昭和34年 昭和35年 昭和36年 昭和37年	第第第第第第第第 第 第 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 9 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	攤 中 一 甲陽中 攤 高 二 甲   攤 中 一 甲 攤 高 五 平 再 票 面 平 平 票 面 平 平 票 面 平 平 票 面 平 平 票 五 平 平 票 五 平 平 票 五 平 平 平 票 五 平 平 票 五 平	陽陽陽陽陽陽陽陽陽陽陽陽陽
昭和38年 昭和39年 昭和40年 昭和41年 昭和42年 昭和43年 昭和44年 昭和45年 昭和46年 昭和47年	第11回 第12回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回	灘 中 一 甲陽中 甲陽高 一 漢   離 中 一 甲陽高 1 0 漢   甲陽中 一 灘 中 甲陽高 - 溝   甲陽中 一 灘 中 甲陽高 4 - 1	分高高高高け
昭和48年 昭和49年 昭和50年 昭和51年 昭和52年 昭和53年 昭和54年 昭和55年 昭和56年 昭和57年	第 21 回 第 22 回 第 23 回 第 24 回 第 25 回 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 第 30 回	灘 中1 — 0 甲陽中 甲陽高 — 灘	高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高高
昭和58年 昭和59年 昭和60年 昭和61年 昭和62年 昭和63年 平成元年 平成2年 平成3年 平成4年	第31回 第32回 第33回 第34回 第35回 第36回 第37回 第38回 第39回 第40回	1 — 1 引分け 甲陽高 2 — 1 灘   甲陽中 1 — 0 攤 中   攤 中 2 — 1 甲陽中 0 — 0 引   攤 中 3 — 1 甲陽中 0 — 0 引   甲陽中 2 — 1 攤 中   攤 市 3 — 0 甲 攤   高 1 — 0 甲 攤   攤 中 2 — 1 甲陽中 攤   滿 高 3 — 1 甲	分け  分け  分け
平成 5 年 平成 6 年 平成 7 年 平成 8 年 平成 10年 平成 11年 平成 12年 平成 13年 平成 14年	\$41 D \$42 D \$43 D \$44 D \$45 D \$46 D \$47 D \$48 D \$50 D	攤 中 4 — 0 甲陽中 甲陽中 2 — 0 攤 中 甲陽中 2 — 1 攤 中 攤 中 4 — 1 甲陽中 1 — 1 引分け 攤 中 4 — 0 甲陽中 攤 高 3 — 0 甲 甲陽高 4 — 1 攤 攤 高 3 — 2 甲 攤 高 4 — 2 甲	分陽分陽分   陽   陽
平成15年 平成16年 平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年	第51 回 第52 回 第53 回 第54 回 第55 回 第56 回 第58 回 第60 回	甲陽中2 — 0 灘 中   甲陽高3 — 0 灘 2 — 2 引分け   甲陽高2 — 0 灘	高高高高高高高高高

総 合

中学校 甲陽 26勝 — 29勝 灘 (引分け6) 高等学校 甲陽 28勝 — 22勝 灘 (引分け9, 不明2)

### 告 板 知

## ☆「山内英正先生 最後の授業」のご案内 ☆

山内英正先生は1973年4月より甲陽学院中学校高 等学校において教壇に立ってこられましたが、2014 年3月をもって定年退職されることになりました。 つきましては退職記念会を次の通り開くことになり ました。同窓生の皆様にはお誘い合わせの上、ご出 席くださいますようお願い申し上げます。

日時:2014年3月30日(日)

「山内先生 最後の授業」午前11時~正午

「謝恩パーティ」 正午~午後2時

場所:ノボテル甲子園

会費:10,000円 (但し大学生・同窓生家族は5,000円)

山内英正記念会

発起人代表 久義裕(62回)

発起人 明石恵司(58回)乾正人(62回)川村雄次(66 回) 井手達夫 (67回) 梅谷幸弘 (67回) 長田浩志 (67回) 樫本恒平(68回)妹尾浩史(68回)安尾明裕(68回)辛 島理人(75回)樋口陽介(75回)西村大典(78回)

お問合わせ E-mail:ymemorial@gmail.com

## ☆「ノボテル甲子園」の優待券☆

1月下旬に新聞報道がありましたように、辰馬本 家酒造はグループ会社が所有・運営する「ノボテル 甲子園」を売却いたしました。ホテルそのものは引 き続き「ノボテル甲子園」として継続されますが、 辰馬グループから切り離されたこともあり、現在の 時点(2月1日時点)では同窓会会員用の「宿泊割引」 「レストラン&バー割引」の優待券は発行されてお りません。あしからずご了承ください。

# ☆お 詫 び☆

甲陽だより本号の発行が予定より大幅に遅れました ことをお詫び申し上げます。

会報編集委員一同

崗 川喜多義弘氏 口小左男氏 保充氏 雅夫氏 淳男氏

 $\widehat{22}$  $\widehat{22}$  $\widehat{21}$  $\widehat{21}$  $\widehat{21}$ 20 18 33 32 27 25 24  $\widehat{23}$ 23 20 19 17 15  $\hat{1}\hat{2}$ 31 29 29 29 28 24 18 9 口 口 口 口 口 口 口 口 口 回 回 口 回 口 回 回

12年2月2 13年7月 13 年 13 年 8 12 年 9 13 年 12 月 13 13 13 12 12 13年7月 13年8月 8年3月5日 13年5月 13年7月 13 年8月 年5月 年7月 年7月 年6月 年8月 年5月 年2月 年 6 年3月 年8月 年9 年 年 · 有 10 **月** 5 月 月 月 月 月 月 8日 4 日 22 日 6 日 15 4 3 10 26 4 18 18 30 4 13 10

> 奥田 佐々 山根

謹んで哀悼の意を表します。 務局では左記会員の逝去の報に接しました

栄三郎氏 隆宏氏 行雄氏 正篤氏 工専1

木治人氏 良夫氏 敏彦氏 昭夫氏 利之氏 (工専1) (高商2) (高商2) (高商2) (高商2) (高商2) 57 回 51 回 47 47 □ □ 高商 高商 高商 高商 61 回 51 回 51 回 50 43 回 45 44 44 42 41 回 口 4 1 12 12年7月23 13 11 13 13 13 12 13 12 11 12 13 13 99 13 13 13 13 年3月16 年3 年4 年10 年 5 年9 年11 年9 年 9 年2月 年5月28 年 年8月3 年8月5 年8月27 年7月3 年1月17 年8月15 年 12 月 23 年7月17 10 12 ġ 11 月 4 月 24 月 28 月 10 月 24 月 12 月 1 月3 月 20 月 7 月 10 月 21 月 15 月 19 16 日

部雅

訃

(平成26年1月31日現在